

私 たち の 力

昨 今 の 建 設 業 界 は 、 厳 し い 経 済 情 勢 を 受 け  
年 々 減 少 傾 向 に あ る 社 会 資 本 整 備 費 に 加 え 、  
年 々 老 朽 化 し て ゆ く 道 路 や 橋 な ど の 既 存 の 社  
会 資 本 の 早 急 な 整 備 が 求 め ら れ て い る 。

そ し て 、 2 0 1 1 年 3 月 1 1 日 に 発 生 し た  
東 日 本 大 震 災 な ど 被 害 が 甚 大 化 す る 自 然 災 害  
を 前 に 、 我 々 建 設 業 界 の み な ら ず 日 本 国 民 全  
体 が 危 機 に 瀕 し て い る と い っ て も 過 言 で は な  
い 。

し か し 、 こ の よ う な 厳 し い 日 本 の 社 会 情 勢  
に あ る か ら こ そ 、 今 、 私 を 含 め 建 設 業 に 携 わ  
ろ う と す る 若 い 学 生 た ち の 力 が 発 揮 さ れ る の  
で は な い だ ろ う か 。

で は 、 私 た ち の 志 す 建 設 業 と は 何 か 。 そ れ  
は 普 段 の 私 た ち の 生 活 を 考 え れ ば 簡 単 に わ か  
る だ ろ う 。 自 分 た ち が 住 む 家 に 始 ま り 、 各 種  
交 通 機 関 、 学 校 な ど の 公 共 施 設 か ら 見 上 げ る  
よ う な 超 高 層 オ フ ィ ス ビ ル な ど 数 え れ ば き り  
が な い 。 ま た 、 視 点 を 変 え る と 、 近 く に 流 れ

る河川には堤防が見え、山を見ればトンネルやダムが、自分の足元に目を凝らせば水道管だってみえるはずだ。このように、人々の生活を直接支え、その人命までも守るものを形にするという職種は、建設業の他には類を見ないであろう。

そして、限られたお金でより良いものを的確に設けるという創意工夫が求められる中、若い私たちの視点が必要とされているのである。

環境問題を例に挙げれば、現代の若い世代では学校教育の現場でも3R活動などへの取り組みが続けられており、小さい頃から身近なところで「エコ」に関わっていることだろう。小さい頃から培ったこの価値観は、建設業の分野においても環境影響に配慮した施工方法の推進など、現在、そして未来の社会にとってより重要なものとなるだろう。

また、建設ラッシュに沸くアジアの発展途上諸国を始め、多くの国々への国外進出のス

テージが広がっている中で、若い私たちが国際言語を習得に力を注ぐことで、言語能力の水準の低い日本を牽引することにも繋がり、建設業の国際市場での活躍と発展にも貢献できるだろう。

現在、建設業界では、第一線で活躍する技術者たちの高齢化、それに併せ若い世代の後継者不足が大きな問題になりつつある。日本が誇る技術の継承が絶たれようとしているのだ。これは今の日本の各分野にもいえることでもある。

たしかに、この不況のあおりを受け、企業の経営や雇用情勢も厳しいのが現状だ。それに、技術の継承と聞いていも、以前の日本の高度経済成長期のような大規模な建設工事に携わる機会は少ないといえるだろう。だが、こんな状況にだからこそ消極的になってはいけない。

大規模な建設工事こそ少なくなっただが、先述したように構造物の老朽化が問題となっ

いるが、それを防ぐためには維持管理の技術が必要だ。この維持管理を例に挙げても、以前の工法に比べより耐久性のある工法を採用、開発することで、維持管理にかかる費用を少なくし、より安全なものへと生まれ変わらせることができる。

また、地域の避難場所や避難経路の整備などの小規模な工事は、大規模な構造物だけでは守りきれない人命を守ることに大きな役割を果たすだろう。

このように、社会資本整備は常に時代の変化とともにそのニーズを変えている。この変化に柔軟に対応でき、他の分野までも活気付ける元気こそが、将来を担う私たち若い世代の最大の力なのだ。

今回の東日本大震災により日本国中が改めて自然の驚異を知ることとなった。とりわけ、他国に類を見ない日本の厳しい国土条件と気象条件の上に成り立つ構造物に求められる機能、建設業に求められる役割はとて大きい

ことは、建設業を志す若い人たちにも感じられただろう。

だが忘れてはならない。日本が世界に誇る技術力とは常に、厳しい環境の中で悩み、磨かれてきた先人たちによる賜物なのだということ。そして彼らの創造の根源には常に人々の暮らしを支えようという熱い思いがあることを。

そんな厳しい世界に果敢に挑み、誰にも譲らない技術と誇りを持つ技術者たちに、私は憧れを抱いてならない。

学校名：東海工業専門学校金山校

氏名：山口雄峰（ヤマクニチ ユウホ）

学科：土木工学科二年